
私にとっての理想の仕事（仕事への生きがい）

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私にとっての理想の仕事（仕事への生きがい）

【コード】

N0198P

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

私が仕事を始めてから今までで学んだ事

(前書き)

苦しみの中に生きがいを見付ける事なんて出来やしない！

私の仕事は『介護』を行う事です。決してキレイな仕事ではありませんが、私はこの『介護』という仕事が好きです。人と触れ合いの中で信頼感という形無きモノを作っていくこの仕事が。

私が『介護』という仕事を始めてもう13〜14になる。初めは楽しかった。自分の行いたい事が出来る喜びがあった。

しかし、それは徐々に崩れていく事になる。上司に呼び出しを受ける度に仕事について文句を言われるようになった。私はこの『介護』という仕事を始めるに当たって一つの目標があった。『アットホームな環境を作る』今となっては、とてつもなく曖昧な目標だったように感じる。しかしその時は、私にとって至高の目標だったのだ。しかしそれを打ち砕く事件が発生する。上司しかも直属の上司との正面衝突だった。私はその時、周りというモノが見えていなかったたのである。『長い物には巻かれる』という言葉も消え去り、私は我道を行く孤立無援の状態となっていた。

それから、私に味方する者も無いまま私は、苦しみの中から逃げるようにして、初めて働いた職場を辞めた。

次の職場では、スタート時から幹部職の座を手に入れた。今までのキャリアと上層部と話が合う結果から手に入れた地位だった。

しばらくの間はその立場に酔いしれながらも一生懸命働いた。働き始めて3年程の月日が流れた頃一つのアクセシントにぶつかる。

それは、直属の上司の退職、それに伴うポストの空白状態だった。私は自分をアピールしようと自分の能力以上を出しきり頑張った。結果、私の部下だった者が私の上司になった。

暫くはとてつもなく仕事を行い辛い精神状態が続いた。しかし、

これは相手にも言えた事で、自分達にとっては、自ら差し向けた刃ではなかった為、お互いに刃を納め仲良く『介護』を行っていく事にした。

またそれから2年程経った時の事だった。会社の役員もガラッとそのメンバーを変えており、そういう中から役職の階級アップの話題が上層部にて上がっていた。私はそんな事も知らず、自分の出来るだけの事を自分の精一杯で毎日頑張っていた。

そんなある日、私の仲の良かった直属の上司が一ランク上に上がったと思うと、自分の直属ではないが部下だった者がまた、私の直属の上司になった。

私は苦悩した。私は役立たずなのかと、そして私は精神を患い、その職場を後にした。

その後1年間の療養期間を経て私は『介護』の仕事に復帰する。一番下っ端からのスタートだったが、それが一段と自分を楽にくれた。責任という目には見えない重圧に苛まれる事なく、『介護』に没頭した。この時、既に忘れていた『アットホームな環境を作る』という目標も掲げずに。

それから約2年程経った時、私に昇進の話が持ち掛けられた。私は何を臆する事無くその話に飛び付いた。これが悪夢の始まりだとも知らずに。

私は下っ端の状態から階級アップし働き始めた。しかし、始めてみると私の行動とは裏腹に上層部からの視線が厳しくなった事に気付いた。いや、自分が意識し過ぎていただけなのかもしれない。そして昇進から約1ヶ月という短い期間で、私は精神的疾病を再発させたのであった。

今、思う。仕事とは楽しみの中で行うモノだ。責任や立場を重圧に感じていては楽しみが薄れ、心も疲弊する。

自分の行いたかった『介護』はやらされている『介護』へと変貌を遂げ、私を病の中へと突き落としたのだった。

未だ、療養期間中。しかし次に復帰する時には楽しく仕事をやるうと思う。楽しく『介護』をやるうと思う。曖昧かもしれないけど『アットホームな環境を』目指して。

(後書き)

楽しいから続く。楽しいから続けられるのさ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0198p/>

私にとっての理想の仕事（仕事への生きがい）

2010年11月20日10時39分発行